

良い市川市の作り方、前編

自分の望み二世の中の望みだと自信を持ってやる必要があります。自分のやっている事は100年後の未来に絶対に役に立つ！という想いがなければ、跳ね返されるのが怖くて没頭できないです。でも、100年後の未来のためであれば何も怖くないです。失敗しても、また突っ込んでいけばいいのです。そして、自分を可哀想と思ったら何もできないです。これをやるぞ！と決めたら、それは、社会の方向性に合致するはずですし、社会のためと自信があるなら、ひく必要はありません。絶対にひいては駄目です。10人、100人の小勢力でも、絶対に風穴を開けられる。と信じて動き続けるしかありません。多くの人に伝え続けて、ひとり、もうひとりと出来れば仲間を増やして、絆をしっかりと持ち、取り組み、それでも跳ね返されたらそれで充分なのだと思います。最悪、死ぬ時に自分で自分を評価できればそれで良いのです。他人の評価なんてどうでもいいです。そもそも、何もいらないうです。自分がどこまで出来たかが問題であり、他人から評価される事ではないです。私はここまでやった、それが重要です。人に認めてもらう、社会に名を残す、それは何の意味もない事です。忘れ去られてもいい。自分がどう生きたかが問題なのです。そのところは間違えてはいけません。そうしないと、失敗した時に、自分はなんて馬鹿な事をしたんだろう…と思ってしまういます。他人から全く評価されなかったらどうする？無駄な事をやったのか？そうではないです。自分にとって、絶対有意義な事をやった。そう思えるような前の突っ込み方をしないと折れた時に悲しくなります。変な話になりますが、いろいろな場面・事で、勝算あったんですか？と聞かれることがあります。でも、あるはずありません。ただ、人生これで終わり！という時に、やりきっていれば涙は出ないと思います。…この切り口でもう少し、お伝えしたい事がありますが、紙面の都合もありますので、次回、改めて述べます。みなさんで「良い市川市の作り方」を思い描き、話し合ってみてください。個々人の想いが集まれば、良い社会、街が形成されます。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成28年10月31日

増田好秀